

カリキュラム区分		2カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	217	3年	前期	看護学科	必修	老年看護方法論 Gerontological Nursing Methods	30	1
担当教員								
永井 さつき	森 万純							
関連するDPキーワード（看護学科）								
	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
○	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
○	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
○	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
高齢者が疾患や障害を持ちながらも、いきいきと暮らすことができるように、その人のもてる力を活かした看護を実践するために必要な知識・技術を身につける。								
到達目標（授業目標）								
1. 高齢者の健康状態の特徴とアセスメントの視点が理解できる。								
2. 高齢者の望む生活や状態像を見据え、目標志向型思考を用いた看護過程の展開方法が理解できる。								
3. 高齢者に生じやすい症候と疾患の特徴について説明できる。								
4. 高齢者の日常生活をより豊かに営むために、対象者の健康状態やもてる力に応じた援助の方法について説明できる。								
回	授業計画（項目・内容と方法・担当者）							
1回	高齢者の生活を支える看護の考え方①：老年看護技術の考え方、ヘルスアセスメントの基本 高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方について講義する。（永井さつき）							
2回	高齢者の生活を支える看護の考え方②：老年看護技術の考え方、ヘルスアセスメントの基本 高齢者の特徴を活かした看護過程の考え方について講義する。（永井さつき）							
3回	高齢者に特有な症候と疾患①脱水症・熱中症、皮膚の変調(老人性皮膚掻痒症 他)：高齢者に生じやすい症候や疾患の発生要因・機序および看護の原則、加齢変化・複合疾患を併せ持つ高齢者に対するアセスメント方法について講義する。（森万純）							

4回	高齢者に特有な症候と疾患②脳血管障害、パーキンソン病、パーキンソン症候群：高齢者に生じやすい症候や疾患の発生要因・機序および看護の原則、加齢変化・複合疾患を併せ持つ高齢者に対するアセスメント方法について講義する。（森万純）
5回	高齢者に特有な症候と疾患③循環器系疾患(虚血性心疾患、心不全、不整脈 他)：高齢者に生じやすい症候や疾患の発生要因・機序および看護の原則、加齢変化・複合疾患を併せ持つ高齢者に対するアセスメント方法について講義する。（森万純）
6回	高齢者に特有な症候と疾患④呼吸器系疾患(肺炎、COPD 他)・感染症：高齢者に生じやすい症候や疾患の発生要因・機序および看護の原則、加齢変化・複合疾患を併せ持つ高齢者に対するアセスメント方法について講義する。（森万純）
7回	認知機能障害のある高齢者への看護①：病態や治療・症状やそれに伴う生活障害、認知症高齢者とその家族への援助、ケアシステム、認知症患者とのコミュニケーション、認知機能低下予防などについて講義する。（永井さつき）
8回	認知機能障害のある高齢者への看護②：病態や治療・症状やそれに伴う生活障害、認知症高齢者とその家族への援助、ケアシステム、認知症患者とのコミュニケーション、認知機能低下予防などについて講義する。（永井さつき）
9回	治療を必要とする高齢者の看護①：手術療法、薬物療法、リハビリテーションについて講義する。（永井さつき）
10回	治療を必要とする高齢者の看護②：入院時・退院時の看護、介護家族への看護について講義する。（永井さつき）
11回	高齢者の生活機能を整える看護(①移動)：ADLの基本である起き上がりや歩行などの基本動作と移動を支える看護について、また転倒リスクのアセスメントの視点について講義する。さらに不活発な日常生活や過度な安静によって引き起こされる廃用症候群について講義する。（永井さつき）
12回	高齢者の生活機能を整える看護(②食生活を支える看護)：栄養状態、摂食・嚥下機能のアセスメントの視点について講義する。（森万純）
13回	【演習】 高齢者の生活機能を整える看護 ①フットケアとしての爪切り、②口腔ケアと義歯の取り扱い（永井さつき・森万純）
14回	高齢者の生活機能を整える看護(③排泄を支える看護)：排尿障害・排便障害のアセスメントの視点について講義する。（永井さつき）
15回	高齢者の生活機能を整える看護(④活動と休息を支える看護)：睡眠と覚醒のアセスメントの視点について講義する。（永井さつき）
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	
成績評価方法及び基準	
授業内容の理解を深めるための課題レポート（20%）、事前学修課題（10%）と筆記試験（70%）によって評価する。課題レポート、事前学修課題と筆記試験の点数を合算して60点以上を合格とする。	
教科書	北川公子ほか「系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学」（医学書院） 鳥羽研二ほか「系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論」（医学書院） 山田律子・内ヶ島伸也編「生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図」（医学書院）
参考図書等	亀井智子編「根拠と事故防止から見た老年看護技術」（医学書院）
授業時間外の学習について（授業準備のための指示）	
予習・復習は各自で行う。指定された事前学修課題には個人で取り組み、指定された期日までに提出する。	
関連科目	
前科目	216 老年看護対象論 159 臨床病態学Ⅳ
後科目	218 老年看護学実習
実務家教員	
看護師（医療機関）	永井 さつき 森 万純

備考						